

公述人2（書面開催）

意見の概要

私は令和元年10月の台風19号で浸水被害に遭った事業所の店長をしている者です。事業所に勤務して10年、地元で生まれ育って50数年経ちます。この10年でも数回は事業所のすぐ側まで増水しています。近年の気象現象を考えると50年に1度の大雨ということでは片づけられない、毎年でも洪水になるような気象になっております。それを踏まえ洪水に強い河川、地域、場所としてやっていかなければなりません。

事業所の立地から考え雄大な景色は財産であることから目の前に堤防をつくるのは現実的でない。治水対策と重複してしまうが河道内の土砂掘削で流域全体の川底を低くする施策が有効かと。出た掘削土は緊急を要する場所での堤防づくりに利用してもらおう。

もう一つは竹林の伐採を進めてもらいたい。今回も竹林が川の流れを妨げ浸水被害の原因の一つになったと思われる。現に事業所では浸水時上流に向かって水が逆流していた。竹林にぶつかったためだ。備品等が100メートル上流にまで運ばれていた事実。河川全体の竹林の伐採で洪水被害も軽減できると思う。また各支流から本流への流れ込みを抑える・時間を遅らせる施策も有効かと。支流単位で遊水地やダム等で一定時間水を留められる施策を。本流へ急激な流れ込みを抑制できれば堤防の決壊や越水対策になる。事業所も建物が古いこともあるので同じ敷地の高い場所に建て替え等をおこない自身も洪水に備える。

あらゆる可能な手段を合わせ、これからの治水対策として水害の少ない那珂川になってほしい。